



さつまいもって、すごいね

—小学校2年生の総合学習より—



財団法人いも類振興会監事 伊藤 定明



■総合学習と演劇

小学校2年生の孫娘が通う東京都世田谷区S女子大学付属小学校では、50年も前から総合学習の時間が設けられています。2年生のテーマは「植物とくらし」で、この学級では、さつまいもについて調べました。

鹿児島県の農家から苗を取り寄せて植え、皆で育てて観察し、収穫したおいもを、集めた落葉で焼いて試食しました。育てる間いろいろと観察したこと、自分たちでつくった焼きいもを味わったこと、を通して娘達は新しい発見をして驚き、多くのことを身をもって学び、さつまいもについて深い思いを寄せるようになりましたが、その一つの現れとして、さつまいもがいつ頃からつくられるようになり、どのようにして日本中にひろまっていったかについて調べ、これを総合学習の取り纏めに際して、劇として台本をつくり発表しました。

台本は、さつまいも栽培と焼きいも試食の体験のほか、目黒不動にある青木昆陽の墓に参るなどして子供達を中心となり、主として

さつまいも普及の功労者昆陽先生の業績について述べられています。担任の先生の適切な助言があったことはもちろんですが、小学2年生が、よくここまで取り纏めたものか、と感心し、これこそがほんとうの生きた教育であろう、と深い感銘を受けました。

今年は、野国総管が中国より甘藷を鉢植えにして琉球（沖縄）に持ち帰ってから、丁度400年にあたります。その後薩摩（鹿児島県）に伝えられ、各地方に広まりましたが、江戸に伝えられたのち、青木昆陽の努力によって広く栽培されるようになり、今日に至っています。その間にたびたび飢饉に際し、私達の命を支えてくれた有難い作物です。私も戦後食糧難のときには、たいへんさつまいもにお世話になったことを思い、この孫娘の学習に感銘した次第です。

以下、子供達が演じた劇のあらすじを、若干の解説を付け加えて紹介します。

■配役 学級全員がそれぞれ次のような役で出演しました。

子 ども	1～24	24名
青木昆陽	1～2	2名
農 民	1～9	9名

■第一場面 学校の校庭

子供達が総合学習で育てたさつまいもを使って、焼きいも大会をしています。

“かきねの かきねの まがりかど

たきびだ たきびだ おちばたき

あたろうか あたろうよ

きたかぜびいぶう ふいている”

子ども 1 やっぱり、自分たちで育てたおいしいもはおいしいね。

子ども 2 総合学習のクラステーマを「さつまいも」にしてよかった。

子ども 3 本当だね。学習でこんなおいしいものが食べられるなんて、最高。

子ども 4 どのさつまいもを食べているの。

子ども 5 わたしのは「ジェイレッド」中味がオレンジ色だもの。

子ども 3 たしか、ジュース用だったよね。

子ども 1 ほくのは「コガネセンガン」かな。皮も身も白いよ。

子ども 2 焼酎になるのよね。

子ども 4 わたしのは皮が白くて中が紫色だから「タネガシマムラサキ」。

子ども 5 どれも、見た目も味も少しずつ違うね。

子ども 1 こんなにおいしいものを見つけた人は、すごいな。

子ども 4 このあいだ先生が教えてくれたよ。

子ども 5 なんとという名前の人だったかなあ。

子ども 3 青木なんかだったよね…。

子ども 2 あ、思い出した。青木昆陽だ。

子ども 4 目黒不動に青木昆陽さんのお墓があるって、お母さんが言っていたわ。

子ども 5 学校から近いよね。

子ども 2 こんどみんなで行ってみようよ。

子ども 3 そうしよう。 みんなで“そうしよう”。

・子供達にとって、さつまいも苗の植付けは、はじめての体験だったでしょう。根のついていない苗を植えて育つのかしら、と不安がり、植えたあとで葉がしおれてしまっ、枯れるのではないかと皆で心配したにちがいありません。しかし、日が経つにつれ、しおれていた葉も元気を取り戻し、苗の先の芽がぐんぐんと伸びて蔓になってゆくさまを見て、さつまいもの生命力の強さに驚いたこととおもいます。

・日本での、さつまいもの品種改良は、主として茨城県と宮崎県にある研究所で行われていて、たくさんの新しい品種が生れ、古くからある品種といっしょに作られています。いままでさつまいもは、主に煮たり焼いたり、ふかしたり、またお菓子にしたりする食用、焼酎をつくる醸造用、でん粉原料用、それに家畜の飼料として用いられてきました。最近では、飼料としてはあまり用いられなくなりましたが、ジュース、パウダー、ペースト用、発酵食品製造用、紫色など色素の原料、そのほか茎葉を野菜として用いるなど、新しい用途向けの品種が生れています。また、食用でも、とくに焼きいもに向くもの、蒸切り干製造に適した品種の育成にも力が入られています。

・ジェイレッドはカロテン含量が高く、ジュ

ース向けとして育成されました。コガネセンガンは昭和41年（1966）に育成され、食用、菓子原料などの食品加工、焼酎醸造、でん粉原料など用途が広く、高系14号、ベニアズマ、シロユタカとともにもっとも多く作られている品種です。種子島紫は鹿児島県在来の品種で、肉色が濃い紫色をしているので、一部で菓子製造に用いられています。

■第二場面 青木昆陽のお墓の前

子どもたちは、みんなで青木昆陽さんのお墓参りにやってきました。

子ども 6 ここが青木昆陽さんのお墓だね。

こども 7 あ、さつまいもがたくさん供えられているよ。

子ども 8 青木昆陽さんは、さつまいもが好きだったのかな。

子ども 9 あ、お墓の石に「かんしょ先生」って書いてある。

子ども10 かんしょって、どんな意味だっけ。



さつまいもには、たくさんの種類があるのだね

子ども11 「あまいおいも」の意味だって、お父さんが教えてくれたよ。

子ども12 江戸時代のさつまいもの呼び名よね。

子ども 6 え、じゃあ、簡単に言うと「さつまいも先生」ってということ？

子ども 7 どうしてそんな風に呼ばれるようになったんだろう。

子ども 8 まずは、青木昆陽さんにあいさつしよう。

みんなでお墓に向かって手を合せる。

・青木昆陽の墓は目黒龍泉寺不動堂（目黒不動）の後ろの丘上にあり、墓石には『甘藷先生墓』と刻まれ、東京都の史蹟となっています。毎年10月28日には同寺で甘藷先生遺徳大法要が営まれ、甘藷まつりが盛大に催されますが、本堂と墓前にはさつまいもが供えられ、また境内には焼きいも、蒸しいも、その他さつまいも菓子、いろいろな種類の生のさつまいもの店のほか、200軒前後の露店が出店し、夜まで賑わいます。

■第三場面 江戸の町

子どもたちは、いつの間にか江戸の町にやって来ました。どうやらタイムスリップしてしまったようです。

子ども13 あ、あの人青木昆陽さんじゃない。図書室の本で見たわ。

子ども14 声をかけてみよう。

子ども15 こんにちは。青木昆陽さんですか。

青木昆陽 1 そうだが。君たちはだれだい。

子ども16 わたしたちは、さつまいもについて勉強しているものです。

子ども17 さつまいものことを、少し教えていただけますか。

- 青木昆陽 1 かまわないよ。なんでも聞いてくれたまえ。
- 子ども 18 先生は、どんなお仕事をしていますのですか。
- 青木昆陽 1 簡単に言うと、勉強したことを本にまとめているんだよ。
- 子ども 16 勉強が好きなんですか。
- 青木昆陽 1 そうだね。小さいころから本を読むのが好きだったなあ。
- 子ども 13 さつまいものことを知ったのは、いつ頃なんですか。
- 青木昆陽 1 飢きんがおこったころだよ。
- 子ども 17 「ききん」ってなんですか。
- 農 民 1 「ききん」というのは、食べ物がないくて苦しむことだよ。
- 農 民 2 1732年に、西日本を中心に天気が悪くて、お米がとれないことがあったんだ。
- 農 民 3 このとき 1 万人もの人が犠牲になったといわれているんだよ。
- 子ども 18 たいへんだったんですね。
- 農 民 4 昆陽先生が中国の本を読んでいたとき、どこでもよく育つ「かんしょ」というものを見つけたんだよ。
- 農 民 3 さつまいもについて、ほかの本でもいろいろと調べた昆陽先生は「ばんしょこう」という本にまとめたんだ。
- 農 民 4 その本には、こんなことが書かれているんだよ。
- 子ども 6 さつまいもの効能。
- 子ども 7 一、せまい土地でもたくさんとれる。
- 子ども 8 二、味がよい。
- 子ども 9 三、栄養があって、体によい。
- 子ども 10 四、土の中にできるため、風や雨に強い。
- 子ども 11 五、種いもから沢山の苗がとれる。
- 子ども 12 六、飢きんのときでも、主食のかわりになる。
- 子ども 19 七、お菓子のかわりになる。
- 子ども 20 八、お酒にすることができる。
- 子ども 21 九、粉にしてお餅が作れる。
- 子ども 22 十、生でも、煮ても焼いても食べられる。
- 子ども 23 十一、虫の害に強い。
- 子ども 24 十二、育てるのに手間がかからない。
- 子ども 15 いいところが沢山ありますね。
- 農 民 2 この本を大岡越前さまが見つけて、將軍様に紹介したんだ。
- 子ども 14 それで青木昆陽さんは、さつまいもを育てはじめたんですね。
- 子ども 15 ところで、さつまいもを広めるのに、困ったことはありましたか。
- 青木昆陽 1 一つは、江戸の人たちになかなか食べてもらえなかったことかな。
- 子ども 16 こんなにおいしいのに？もったいないなあ。
- 農 民 1 「さつまいもを食べると病気になってしまう」という言い伝えがあったね。
- 子ども 13 そんな、ひどい。
- 農 民 1 でも、そのうちみんなにさつまいものよさが伝わっていったんだ。
- 農 民 4 そして、みんなも食べはじめたよ。
- 青木昆陽 1 もう一つは、種いもをいためてしまっ、使えなくなってしまったことだね。
- 農 民 3 寒さで弱ってしまったんだ。

農 民 2 1500個あったうち、使えたのは
500個しかなかったんだよ。

農 民 4 それでも、秋には4400個ものさつ
まいもが収穫できたんだよ。

子ども18 ということは、1個のおいもから
9個もとれるんだ。

子ども14 すごいなあ。

農 民 1 その後、さつまいもは、昆陽先生
の書いた本といっしょに日本中に
広められた。

農 民 3 そして、全国で栽培されるように
なったんだよ。

子ども17 実際に、畑を見せていただきたい
んですけど。

農 民 2 いいよ。ここからちょっと歩くけ
ど、いいかい。

子ども15 はい。よろしくをお願いします。

・さつまいもを普及させたことで、青木昆陽
はその名をひろく知られていますが、もとは
儒者、蘭学者でした。江戸の商人の子といわ
れ、京都で学んだ儒学を江戸に帰って教える
うち、江戸町奉行大岡忠相に知られ、書物
方に登用されました。かねてからさつまいも
が、救荒作物として優れているとの意見をも
っていた昆陽は1735年（享保20年）に蕃藷
考を著し、さつまいもの栽培を勧めています。
のち昆陽は書物奉行に昇進しました。

・農作物の凶作による飢きんは、有史以来た
びたびありましたが、とくに広く知られてい
るのは江戸時代に入ってからで、享保、天明、
天保年間に発生したものを江戸時代の三大飢
きんとよんでいます。享保17年（1732）に
は長雨とウンカの大発生によって瀬戸内海沿
岸地方から西日本にかけて大飢きんとなり、
公には飢人93万人とのことでしたが、実際

にはその2、3倍はあったといわれています。
しかし、すでにさつまいもが作られていた瀬
戸内の島々では、餓死する者は全くありませ
んでした。また、天明2年から同7年
（1782～87）にかけては天候不順、浅間山噴
火の降灰によって、天保4年から同7年
（1833～36）にかけては風水害、低温多雨に
よって、それぞれ大飢きんがおこっています。
・薩摩藩では、さつまいもの藩外への持ち出
しを厳禁していましたが、享保年間以前にも
薩摩から江戸に入る船には、実際にさつまい
もが積み込まれていて、江戸の人達はこのい
ものことを知っていました。しかし、これを
食べると痰の毒になるといわれ、人々は見向
きもせず、また栽培、保存の方法もよくわか
っていなかったため、蕃藷考が著されるまで
普及しませんでした。

■第四場面 小石川薬草園

子どもたちは、小石川の薬草園に行きまし
た。

青木昆陽2 ここが、わたしの畑だよ。

子ども19 うわあ、学校の畑よりも、ずっと
広い。

農 民 5 昆陽先生は、ここで一生懸命さつ
まいもを育てたんだよ。

青木昆陽2 雨の日も、風が強い日も、さつま
いもの様子を見に来たんだ。

子ども20 大変でしたね。

青木昆陽2 いやいや、しっかり育っているか、
心配だったからね。

子ども21 さつまいもを育てるときに大切な
ことは、何ですか。

農 民 6 まず一つめのポイントは、植えつ
けの時さ。



上、こんなに長く蔓がのびました
下、ほら、おいもがついていた

農 民 7 早すぎると、寒さや霜にやられてしまう。

農 民 8 遅いと、いもが太らない。

子ども23 早すぎても、遅すぎても、だめなんですね。

子ども24 では、いつごろ植えるのがいいんですか。

農 民 9 江戸のあたりでは、ちょうど5月から6月くらいといわれているよ。

子ども22 わたしたちが植えたのも、6月だった。

農 民 5 二つ目のポイントは、土をよく耕

すこと。

農 民 6 鍬などを使って、深いところから掘りおこすんだ。

農 民 7 空気を入れて、土をやわらかくするんだよ。

子ども20 どうして、やわらかくするんですか。

農 民 8 土がかたいままだと、ごぼうのように細いさつまいもしかできないんだ。

子ども19 わたし家で育てたおいもは、白くて細い根っこが生えていただけなんですけど。

農 民 8 それは、土の中に空気が少なかったからだね。

子ども24 そうだったんですね。やっと理由がわかりました。

農 民 9 三つ目のポイントは、肥料や水は控え目にするること。

子ども22 え、ほかの植物を育てるときは、たくさんあげるのに。

子ども23 わたしのお母さん、ガーデニングをやっているけど、たっぷりあげているよ。

農 民 5 肥料をあげすぎると、つるぼけしてしまうんだ。

子ども21 つるぼけ？

農 民 6 葉や蔓が茂りすぎて、おいもの太りがわるくなることだよ。

子ども20 そういえばうちのおいも、葉っぱはよく育っていて、家族みんなで

大きいおいもが育っているだろう
と、期待していたけど、掘ってみ
たら親指くらいのおいもだった。

農 民 7 つるぼけしていたんだね。

農 民 5 水は毎日あげなくても、葉っぱがし
おれてきたら、やればいいんだよ。

子ども19 ほんとうに、それでだいじょう
ぶ？

農 民 7 だいじょうぶだよ。さつまいもは、
細い根を土の深いところにのばし
て、水や養分を吸い上げることが
できるからね。

農 民 9 植えた後は、ほとんど手がかから

ないんだよ。

青木昆陽² だから、どんなところでもよく育つ。

子ども21 それで、飢きんのとき、みんなを
すくったのね。

・小石川薬草園は、貞享元年（1684）に幕
府の薬草園として設けられ、広さは約48,000
坪（15.8ヘクタール）ありました。維新後東
京帝国大学（現東京大学）の所属となって小
石川植物園と改称され、現在に至っています。
昆陽は小石川薬草園と小石川養生所で、さつ
まいもの試作をしました。薬草園では183坪、
養生所では150坪、あわせて333坪（約1,100
㎡）。ここで試作をして結果を纏め、上申し

たのが「薩摩いも作り様、功能之儀
上書」で、この書ものちに『蕃薯考』
といました。試作する畑づくりにも
苦労しています。すでに畑として
出来上がっているところではなく、
荒地の土を2尺（60cm）も掘り下
げ、木の根、茅の根を取り払い、地
均らしをし、できた畑はまわりに頑
丈な垣根を作って人が入らないよう
にしました。

・さつまいもの試作は、下総国・上
総国（千葉県）でも行われ、とくに
下総国馬加村^{まくわり}では好成績を収め、次
第に栽培が伸びてゆきました。これ
は、新しいことに取り組もうとの意
欲を持つ人たちの努力に負うところ
が大きいのですが、そのほか幕府は、
常に食糧不足に悩む伊豆諸島に、試
作でとれたさつまいもを「蕃薯考」
といっしょに配布し、生産を奨励し
ています。さつまいもを食べると病
気になる、との言い伝えを信じて敬



上、あ、生でかじろうとしているよ
下、やっぱり自分で育てたおいもはおいしいね

遠していた人たちの間にも、次第にそのおいしさと、救荒作物としての価値が認識されるようになり、やがて関東地方、東日本一帯に広まってゆきました。

■第五場面 青木昆陽のお墓の前

子どもたちは、現在にもどってきました。次の日、学級のみinnで育てたさつまいもを持って、もう一度青木昆陽さんのお墓のおまいりに行きました。

子ども 9 青木昆陽さんが、「かんしょ先生」と呼ばれているわけがわかったわ。

子ども 10 さつまいもを広めた青木昆陽さんは、すごい人だったのね。

子ども 11 さつまいもは、昔の人にとって、とても大切なものだということがわかったよ。

子ども 12 おばあちゃんも、戦争のときに、葉っぱや蔓まで食べたって言うていたよ。

子ども 6 戦争のころも、たくさんの人びとをすくったんだね。

子ども 7 いつも何気なくさつまいもを食べていたけど、青木昆陽さんに感謝しないとね。

子ども 8 いまでは、食事やおやつに欠かせ

ないさつまいも。

子ども 9 これからも、みんなで大切に育てましょう。

学級全員で作詞した「みんなのさつまいも」をうたいます。

一 ききんの時に昆陽さん

みんなのことを救ったよ

米のかわりにさつまいも

甘藷先生ありがとう

二 植えつけの時気をつけて

土をたがやし軟らかく

肥料や水はひかえ目に

これを守ればよく育つ

三 いろいろ使えるさつまいも

葉っぱや蔓も食べられる

食事やおやつに欠かせない

これから先も育てましょう

さつまいも

— 幕 —

・書物奉行となった昆陽は明和 6 年 (1769)

10月12日72歳で逝去しましたが、遺体は目黒の龍泉寺不動堂内に埋葬され、江戸のさつまいも問屋仲間が『甘藷先生墓』の墓碑を建てました。また、弘化 3 年 (1846) 12月に昆陽神社が下総国馬加村 (現千葉市花見川区幕張町) に創建されています。

